

恒例の「地域の皆様への感謝の会」を開催しました

平成24年11月23日(金・祝)、恒例の「地域の皆様への感謝の会」を大塚山処分場にて開催しました。今回で17回目となります。当日は雨天にもかかわらず、160名近くの地元の方々にご来場頂きました。降ろし場や水処理施設の場内見学、現在の状況等をご説明し懇談会を行いました。

【水処理施設見学の様子】



【埋立地見学・廃棄物サンプル展示の様子】



【弊社会長挨拶の様子】



【12月14日付の房総新聞に記事が掲載されました】

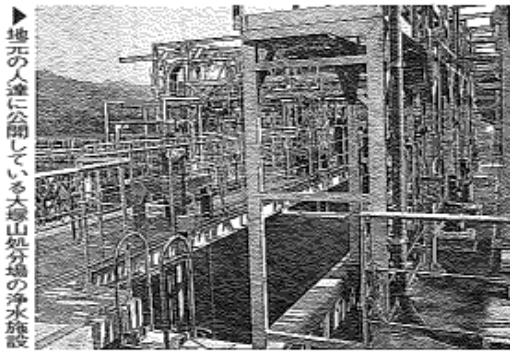
先進的な技術と研究、細心の注意で万全期す

生活環境保全を第一に

大平興産「感謝の会」

産業廃棄物処理業・大平興産(株)（山上代表取締役）
本社／東京都千代田区
ではこのほど、富津市関の同社大塚山処分場（管理型）

最終処分場）で「地元の皆様への感謝の会」を開催し、地域住民らに埋め立て現場や浄水施設を公開した。同社は昭和四十六年に創立、同六十年大塚山処分場（第一処分場）で操業、平成四年に埋め立て終了。同年第二処分場



地元の人達に公開している大塚山処分場の浄水施設



▲環境保全に対する熱い思いを語る山上会長

を、同二十年には第二処分場第一期の操業を開始した。また、民間の廃棄物処理業では国内初となるISO14001の認証を取得（平成9年）。この環境マネジメントシステムによる施設や構造物の保守・点検並びに稼働状況の監視等を日常的に行い、周辺地域への環境負荷の低減に努めるとともに、地下水汚染対策に万全を期している。

また、東日本大震災発生後は、同処分場の管理状況や放射線量（受け入れ廃棄物、放流水及び処分場内）、第三処分場の周辺地域への環境影響（動・植物等の生息状況）に関する調査結果、受け入れ廃棄物等を公開するなど、地域住民らの不安解消に努めている。

同処分場の平成二十三年度埋め立て総数量は約九万トン（内訳／燃え殻・ばいじん・鉱さい 30%、汚泥 29%、一般廃 14%、廃プラスチック類 6%、ガラスくず等 21%、地域別では九十四%が県内で、排出事業所総数は約百二十。

感謝の会で山上会長が、地元の理解に対して感謝の意を述べた上で「昔は野焼きなどで燃やすことが可能なゴミが大半を占めていたが、現代のゴミは多種多様。これでは何らかの影響が出るのでは。環境を守るためには専門的知識を持つ者が

と、事業に対する深い思いやその姿勢に敬意を表します」と、吉本充県議と高梨良勝市議も、専門家による徹底管理で万全を期す同社の企業姿勢を語るとともに、地域住民の理解に対し感謝した。また、宮田昭夫高溝水道組合理事長は「一流の技術を持ち、失敗は決して許されない」という経営哲学を賞めている山上会長に感謝する」と挨拶した。

処理することが大切だと考え、この仕事を始めた」と、同処分場操業の理由を語り「当社では、化学的知識を有する者が受け入れる廃棄物を分析するなど、先進的な技術と研究、更には細心の注意を払い、生活環境保全を第一」とし、完璧な処分場運営をしていますので、安心して頂きたい」と挨拶。来賓の浜田靖一氏は「化学的、技術的な裏づけの